

平成24年度
「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査」
報告書（概要版）

1 調査の目的

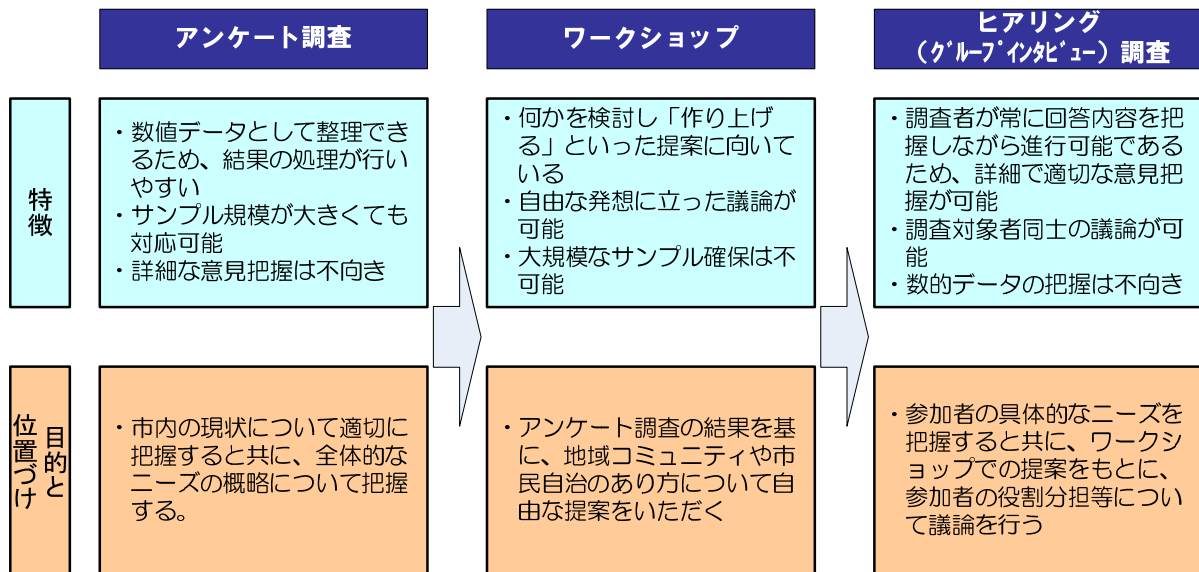
武蔵野市では、「コミュニティ構想」から受け継がれた歴史も長く、地縁型、テーマ型を問わず多様なコミュニティが活動している。しかし、一方で都心部への勤労世帯の多い武蔵野市において、地域コミュニティに参加していない市民も大多数を占めるのではないかとと思われる。

本調査は、こうした市民に対しても、地域コミュニティについて考える機会をつくるとともに、これまで直接意見を聞くことが少なかった市民の意見を吸い上げ、地域コミュニティを構成する市民や関係団体による幅広い議論の内容に基づき、今後の地域コミュニティや市民自治のあり方について検討するための基礎情報を収集・把握することを目的として実施した。

2 調査実施概要

本調査では、アンケート調査、市民ワークショップ、ヒアリング（グループインタビュー）調査により、市民及びNPO、市民活動団体等から幅広い意見収集を行った。調査方法の特徴と位置づけについては以下に示すとおり。

本調査における意見聴取の実施方法と位置づけ



3 アンケート調査

3-1. 実施内容

地域コミュニティや市民自治に関する意識や活動の現状等を把握し、今後の地域コミュニティのあり方及び、市民自治のあり方について検討する際の基礎資料とすることを目的として、武蔵野市民及び市内を中心に活動する市民団体等に対し、「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のためのアンケート調査」を実施した。

市民アンケート調査の実施概要

【調査対象】	住民基本台帳から無作為抽出により、武蔵野市に居住する満 18 歳以上の男女 3,000 人を抽出
【調査内容】	○回答者属性 ○地域とのかかわり ○市内での地域・コミュニティ活動への参加状況 ○コミュニティセンター・コミュニティ協議会のあり方 ○市民自治のあり方
【調査方法】	郵送配布・留置・郵送回収
【調査時期】	平成 24 年 10 月初旬～11 月初旬
【回収状況】	997 票/3,000 票（回収率：33.2%） 回答者属性（性別、年齢、居住地区等）に大きな偏りは無い

団体アンケート調査の実施概要

【調査対象】	市内で活動する市民活動団体 665 団体
【調査内容】	○団体概要、活動状況 ○地域とのかかわり ○コミュニティセンターのあり方 ○市民自治のあり方
【調査方法】	郵送配布・留置・郵送回収
【調査時期】	平成 24 年 10 月初旬～11 月初旬
【回収状況】	361 票/665 票（回収率：56.3%）

3-2. 結果の概要（詳細は報告書 4, 5, 46 頁参照）

- ◇ 近所づきあいの程度は、「会えばあいさつをする」が最も多く、比較的密なつきあいをする割合も一定程度ある。
- ◇ 地域のイメージは、「武蔵野市」「吉祥寺エリア」「町」の順となったが、ばらつきがある。
- ◇ 地域に愛着のある市民は、全体の 7 割を超えている。
- ◇ 地域にあると良いつながりとして、「いざというときに助け合える」への期待が最も高く、地域課題の解決やそのための活動を希望する割合は低い。
- ◇ 地域とのかかわりに関する今後の意向は、現状維持を希望するが過半を占めている。
- ◇ 地域・コミュニティ活動への参加について、「参加している」は 1 割だが、「今後参加したい」との合計では過半を占めている。
- ◇ 参加動機は、「活動に関心があった」「参加を依頼された」が約 4 割ずつと高くなっている。
- ◇ コミセンについて、約半数が最寄りのコミセンも含めて知っている。
- ◇ コミセンに対しては、個人、団体共に、「気軽に集い、つながりをつくるために活用できる場」としての期待が最も高い。
- ◇ コミュニティ協議会の運営について、若い世代では「地域団体の参画」「行政の関与」への賛成意見が多く、50 代以上は「自主性に任せ、行政は支援」への賛成意見が多い。
- ◇ 市民自治について、市民や団体と行政の「連携・協働」「適切な役割分担」を求める意見が多い。

4 市民ワークショップ

4-1. 実施内容

本調査において実施したアンケート調査結果を踏まえ、広く市民からの意見を聴取し、コミュニティに期待される役割等についての考え方を把握することを目的として、別途無作為に抽出した市民を対象に市民ワークショップを実施した。

市民ワークショップの実施概要

【実施対象】

- ・アンケート調査とは別に無作為抽出した、武蔵野市に居住する満 18 歳以上の男女 3,000 人から調査協力を得られた 95 名

【実施日時、参加人数】

- ・以下、2回にわけて実施した。
 - －平成 24 年 12 月 8 日（土）午後 1 時～午後 5 時 61 名参加
 - －平成 24 年 12 月 16 日（日）午後 1 時～午後 5 時 34 名参加

【検討内容】

- ・4～6名ごとのグループに分かれて、表 1 の①～③のテーマについて各々討議した。
- ・グループごとの討議内容を発表し、良いと感じる提案に投票した。

4-2. 結果の概要（詳細は報告書 69 頁参照）

- ◇ 地域コミュニティに期待することとして、世代・性別の垣根を越えた参加しやすさの確保、世代間交流、時代に合った気軽につきあえる近隣関係の構築等が挙げられた。
- ◇ また、そのための具体的な取組として、ホームページ上での地域の行事に関する情報の発信、市民活動団体の対抗戦といった提案がなされた。

得票数の多かった提案（表 1）

① 地域コミュニティに期待すること	② 「①」を実現するために市民としてすべきこと	③ 「②」を進めるために不足すること
<ul style="list-style-type: none"> ・世代・性別を問わない、参加しやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすさに配慮した環境づくり ・一時参加者（学生等）でも参加しやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信しやすい場についての支援 ・環境づくりの支援
<ul style="list-style-type: none"> ・世代・職業を超えて地域の人々との交流を深めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティでの行事へ参加する ・市民間でのボランティア活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と情報交換を行う機会の設定（掲示板等の活用） ・ボランティアポイントの創設・活用
<ul style="list-style-type: none"> ・時代にあった緩やかな近隣関係の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をすることから始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の意識啓発
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢・世代を超えて気軽につき合えるコミュニティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・寛容と常識 ・コミュニティづくりのための機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の立ち上げ等ハウツーと情報発信のサポート ・コミセン利用の広報強化 ・地区対抗運動会等で、地区の絆を高める ・多様なイベント、参加しやすい行事
<ul style="list-style-type: none"> ・大人の社会科見学（企業見学）、健康講習会 ・ホームページ上で地域の行事情報の発信（カレンダー形式） ・市民活動団体の対抗戦・発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を探す（健康講習会等） ・企業・施設等への協力依頼 ・市に地域行事情報のホームページへの掲載を依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との交渉ができる人材
<ul style="list-style-type: none"> ・大小の地域グループの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、子ども会、老人会、商店会、学校、企業とともに、具体的な組織づくりを進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内を自由に行き来できる交通ネットワーク

5 ヒアリング（グループインタビュー）調査

5-1. 実施内容

「市民」「市民活動団体」「コミュニティ協議会」各々別にヒアリング（グループインタビュー）調査を実施したうえで、参加者が一同に会し、検討内容を共有するとともに、各区分を横断して編成したグループで意見交換を行い（意見交換会）、今後のコミュニティのあり方や、役割分担について議論を深めた。

グループインタビュー及び意見交換会の実施概要

【実施対象】

- ・アンケート調査への協力が得られ、グループインタビューへの参加意向が得られた市民・団体のうち、開催日程で参加があった市民5名、団体9団体（コミュニティ協議会含む）

【実施日時、参加人数】

■グループインタビュー

- ・市民に対するグループインタビュー
ー平成25年2月28日（木）午後7時～午後9時 5名参加
- ・団体に対するグループインタビュー
ー平成25年2月27日（水）午後7時～午後9時 6団体参加
- ・コミュニティ協議会に対するグループインタビュー
ー平成25年3月1日（金）午前10時～正午 3団体参加

■意見交換会

- ー平成25年3月5日（火）午後7時～午後9時 4名及び8団体参加

【検討内容】

- ・グループインタビューでは、地域との関わり方（地域での活動状況）、地域コミュニティ等に期待すること、コミセンの利用状況やコミセンとの関わり、コミセンに期待することなどについて意見把握
- ・意見交換会では、グルインの結果を共有し、地域のコミュニティ（絆）を形成していくという目的に対して、コミュニティ協議会を前提とした上での、市民・団体・コミュニティ協議会の役割分担等について議論

5-2. 結果の概要（詳細は報告書91頁参照）

【グループインタビュー】

- ◇ コミュニティ協議会の運営のあり方については、閉鎖的であり改革すべきという意見が多い。
- ◇ コミセンについても、単なる貸し部屋になっていることへの不満感があり、より市民が気軽に集いやすく、つながりづくりのための場にすべきとの意見が出された。
- ◇ コミセンは市民が気軽に集うことができ、市民・団体が連携・協力してまちづくりを行える拠点であることが望ましいとの意見が出された。
- ◇ 地域の課題解決にどこまで踏み込むかの判断が難しいといった意見が出されたほか、運営委員の高齢化、コミセンの活動情報が市民にうまく伝わっていないこと等が挙げられた。

【意見交換会】

- ◇ コミセンが市民と団体、団体と団体間をつなぐ存在になると良い。
- ◇ コミュニティ協議会の運営のあり方について、現状の組織体制では期待された役割に応えることが難しいため、コミュニティ協議会の運営委員を、住民が各ブロック持ち回り制で担当する案が市民から出された。
- ◇ 団体からは、市民がコミセンに足を運ぶきっかけづくりのため、様々な団体がコミセンと関わりを持ち、コミセンを盛り上げていくことで理想型に近づけるといった提案が出された。
- ◇ 市民からは、市民がコミセンのイベント等に参加する際、背景にある団体活動等の情報に触れることのできる仕組み作りの必要性が指摘された。

平成25年3月発行 武蔵野市市民部市民活動推進課 住所 武蔵野市緑町2-2-28
電話 0422-60-1830 FAX 0422-51-2000 E-mail sec-katsudou@city.musashino.lg.jp